

『文化情報学』刊行にあたって



村上 征勝（文化情報学会会長）

学問の進歩発展に伴い、学問の領域は細分化されてきました。それに伴い、大学においても、細分化された学部、学科で個別に専門的な教育が行なわれてきましたが、このような細分化は、学問を多面的、総合的に捉えるという視野に欠けるという問題を潜在的に含んでおり、そのため、近年多様な領域の知識を融合し総合的に教える「文理融合型」の教育の必要性が叫ばれるようになりました。

同志社大学創立130年の年に誕生した文化情報学部は、文化や社会の諸現象の研究に、自然科学の分野で用いられている研究手法や分析機器を積極的に導入した「文理融合型」の本格的な教育・研究を行なう、日本で唯一の学部とあってよいでしょう。この新しい学部、教員と学生を会員とする文化情報学会が設立されましたが、このたび、学会の研究報告誌として、『文化情報学』第1号を刊行できましたことは誠に喜ばしい限りです。

文化情報学部が研究教育対象とする文化や社会に関する現象は多岐にわたります。そのため『文化情報学』に掲載される研究の内容も広い分野に及びますが、この『文化情報学』が「文理融合型」の研究誌のパイオニアとなり、新たな知に関する研究領域の確立に貢献することを確信しております。また、この研究報告誌を通じて、多くの人々に文化情報学という学問の面白さと必要性を知っていただけたら幸いです。